

問題提起

南山大学大学院法務研究科
町村泰貴

法科大学院の教育方法

- 一方通行的な講義スタイルへの批判
- 法律知識を詰め込むよりも、思考力や応用力が重要との認識
- 自学自習と適切な教材を前提にした双方向・多方向の授業スタイルを推奨
- 実務の理解にシミュレーションやロールプレイが重要
- ライティングやクイズによる学習到達度の確認が必要

双方向多方向授業(能動的学習)

ソクラティック・メソッド

学生との議論を織り交ぜた講義

ディベート

レポート、授業ごとのライティング

ウィークリー・クイズ

シミュレーションやロールプレイ

学生との共同作業

模擬裁判

リーガルクリニック

エクスターンシップ

これらは実際に活用され、所期の学習効果に結びついているか？

双方向スタイルの難点

- 時間がかかり、多くの量をこなせない
- 単に質問するだけでは学習効果に結びつかない
- 成績評価に結びつけるのが難しい
- レポートやクイズ、ライティングなど頻繁に行えば負担が重くなり過ぎる
- 学生同士の議論を喚起することは困難
- 受講生のレベルの差から無駄が多くなる
etc...

理論と実務の架橋

- 理論教育の内容が実務と明確に関連づけて提示される
- ケースメソッドやシミュレーションを理論教育方法にも取り入れる
- 研究者教員と実務家教員との協力連携

これらは実際に活用され、所期の学習効果に結びついているか？

法学基本科目の問題点

- 未修者の教育
 - 実質的な既修者と純粹の未修者とが混在
 - 来年度以降、1年の教育を経た純粹未修者と法学部卒業後の既修者とが混在する2年生クラス
 - 3年間という短期間で、司法試験合格と前期修習終了レベルの法的知識・能力および実務家としての基礎能力を修得させることは可能か？
- 既修者(司法試験受験経験者)の問題
 - とりあえず分かりやすい「説」を数多く暗記して、硬直してしまう学生たち

実務基礎科目の問題点

- 実務基礎科目の内容
 - その標準
 - 到達目標
 - 新司法試験との関係
- 法学基本科目との関係
 - 基本科目の肥大化と実務基礎科目への圧迫
 - 基本科目との連携
 - 実務基礎科目相互の連携

展開・先端科目の問題点

- 当初の理念(高い専門性を身につけた法曹の養成)は達成可能か？
- カリキュラム(履修上限)からも学習時間の制約からも、展開・先端科目に力を入れるのは困難
- 基礎法や他分野(心理学や法医学、社会学など)の学習機会はあるか？